

ー臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力のお願ー

現在、法医学講座では、本学で保管している法医解剖で得られた情報等を使って、下記の研究課題を実施しています。

この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の研究内容の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。なお、この研究課題の研究対象者に該当すると思われる方のご遺族の中で、法医解剖で得られた情報等を「この研究課題に対しては利用・提供して欲しくない」と思われた場合にも、下欄の研究内容の問い合わせ担当者までお申し出ください。その場合でも研究対象者のご遺族に不利益が生じることはありません。

[研究課題名] 法医解剖例における急性壊死性食道炎の発生要因の検討

[研究対象者] 2008年2月1日から2022年12月31日の間に、法医学講座にて法医解剖を受けられた方の中で、急性壊死性食道炎の診断が行われた方

[利用している法医解剖で得られた情報等の項目]

情報等：性別、年齢、身長、体重、生前の健康状態（既往歴・現病歴）、発症・受傷状況、発症・受傷後の臨床経過、発生場所の状況、解剖結果（CT検査所見、剖検所見、組織検査所見、血液生化学検査結果、中毒検査結果、死因、死因の種類、死後経過時間）

[利用の目的] （遺伝子解析研究：無）

法医解剖では自宅等で死亡された方の中で急性壊死性食道炎の剖検診断を行うことがあります。一般に、急性壊死性食道炎は、糖尿病、高血圧、飲酒等の病歴が関与しているとされています。今回の研究では、既往歴との関係に加えて、発生場所の環境要因との関係を明らかにすることを目的としています。季節、天候、気温、湿度、屋内・屋外の別、室温などの環境温等と発症の関係が明らかになれば、急性壊死性食道炎の発症予防と発症時対応につながります。法医解剖の結果を取りまとめる研究であり、検体を用いた新たな解析は行いません。

[研究実施期間] 2023年3月15日より2025年3月31日までの間（予定）

[この研究での法医解剖で得られた情報等の取扱い]

本学倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、法医解剖で得られた情報等には氏名、生年月日等の情報を削り、個人が特定されないことがないように加工をしたうえで取り扱っています。

[研究責任者、および、研究内容の問い合わせ担当者]

研究責任者：東京女子医科大学 法医学講座 教授・基幹分野長 木林和彦

研究内容の問い合わせ担当者：東京女子医科大学 法医学講座 木林和彦

電話：03-5269-7300（応対可能時間：平日9時～16時）